

様式第7号（第21条関係）

番 号  
令和6年6月28日

佐賀県県民協働課長 様

住 所 佐賀県三養基郡みやき町大字白壁1074-3  
メディカルコミュニティセンター2F  
団 体 名 特定非営利活動法人きゃんどのハート  
代表者職・氏名 理事長 永瀬千枝  
電 話 番 号 0942-50-5602

佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による  
寄附金活用実績報告書

令和5年度において、当団体に交付された佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」を活用して別紙のとおり事業を実施したので、佐賀県ふるさと寄附金（「県民協働の地域づくり」及び「NPO等を指定した支援」）による寄附金交付要綱第21条第1項の規定により提出します。

-

令和5年度 佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による寄附金活用実績報告書

- 1 団 体 名 : 特定非営利活動法人きゃんどうるハート
- 2 事業実施期間 : 令和5年4月1日 から 令和6年3月31日
- 3 事業の背景 (※事業計画書から転記)

■事業の実施により実現したい佐賀県の地域像

本格的な高齢化が進む地域社会において、安心して活力ある豊かな超高齢社会を築いていくには、高齢者の社会参加は極めて重要な意味を持つ。高齢者が年齢に関わらず社会に参加し活躍し続け、社会を支える担い手になることは時代の要請である。同時に高齢者自身が社会的な役割を持つことは、自身の心身の健康を保つと同時に地域社会の健全な発展に大きく寄与する。

佐賀県においては、介護支援に特化した「介護支援ボランティアポイント制度・サポーターアさが」の取組により、地域の活性化や住民同士のつながりを強化し、地域支え合いの仕組みと、住民主体の地域社会づくりが進められている。しかし、さらに進む高齢社会において、高齢者の外出の機会の増加や社会参加の促進といった、対象を高齢者に限定した仕組みづくり、高齢者になってからの参画を基本とした活動では、持続した課題解決としての発展につながりにくい。

そこで、若い世代、現役世代を巻き込んだ地域社会全体のつながりによる新たな仕組み創りにより、誰もが、自身の経験・スキルを社会に還元することや、余暇・時間を有効に活用した全員社会参加による相互扶助の輪を広く県内全域に展開し、未来に向けた元気な佐賀県創りをめざす。

4 事業の成果

①県民の便益にどのようにつながったのか

当初から取り組んでいる「しあわせ脳幹ストレッチ」を家庭のストレスケアステーションにて154名の方に利用していただき、多世代の利用者の悩みに寄り添い、心身の健康を保つ一助となった。

またシニア世代のボランティア活動への参画を促すための新たな仕組みづくりのため、地域背景の調査を行ったり、連携予定としていたNPO団体（NALC）から研修を受けるなどの機会を設けたりし、きゃんどうるハート独自の活動を構想していく新たな方針を定めた。実践につなげるための基盤づくりも整え、具体的な活動内容の検討に進んでいる。

きゃんどうるハートの全事業展開については、その内容や活動の実践展開についてHPやSNS等で広く広報することができたおかげで、県外での認知も進んでいる。

②佐賀から広がった社会像（該当する活動のみ）

- 5 寄附金活用事業実績 : (別記1)
- 6 次年度繰越額活用見込み : (別記2)
- 7 寄附金活用額 : (別記3)

(別記1) 寄附金活用事業実績

○寄附金を活用して行った事業 (GCFを行った場合は、GCF名とその内容を記載)

事業名	具体的な事業内容 ①目的②対象者③実施内容	①実施日時 ②実施場所	事業費の 支出金額 [単位：円]	うち寄附金 活用額 [単位：円]
ストレスケア事業 (家庭のストレス ケアステーション での施術)	①生活の中で無意識に溜まるストレスはコントロール可能であることを伝える/産後うつ予防 ②ママ～全世代 ③しあわせ脳幹ストレッチの施術・カウンセリング	令和5年4月～ 令和6年3月まで  みやき町メディカルコミュニティセンター2階	3,457,946	3,457,946
ストレスケア事業 (マルシェの参加)	①ストレスケアの必要性を伝える ②マルシェの来訪者(全世代) ③ストレス度計測・ストレスについての説明	令和5年4月～ 令和6年3月まで みやき町メディカルコミュニティセンターで行われるマルシェにて(全10回程度)	0	
ストレスケア事業 (講座開催)	①子どものストレス指数は親の指数の+1であることと親が機嫌よく過ごすことの大切さを伝える ②親(養育者)子どもに関わる方 ③講座・講演会の開催(ストレスケアカウンセラーによる講座・講演)	令和6年3月まで にこにこ(利用者支援事業)・るんるん(子育て広場)各事業所・みやき町メディカルコミュニティセンター	0	
広報事業	①新事業を加えた更にわかりやすいHPの作成と広報活動 ②全世代 ③HP・SNSの利用及び団体のパンフレットを作成し活動の実践展開について広く広報した。	令和5年4月～ 令和6年3月まで  みやき町メディカルコミュニティセンター2階	1,792,863	1,792,863
地域コミュニティ【わくわく恩送り倶楽部】事業の構想	①誰もが、自身の経験・スキルを社会に還元するための活動及び余暇・時間を有効に活用したボランティア支援の輪を創出し、社会参加による地域の課題解決を促進する。 ②若者から高齢者まで、男女の区別なく、広く一般市民を対象とする。 ③高齢者大学での意識調査や連携団体の研修を通して独自の活動を構想していく方針を固め、実践への基盤を整え、具体的な活動内容の検討も進んだ。	令和5年4月～ 令和6年3月まで みやき町メディカルコミュニティセンター2階	288,000	288,000
計			5,538,809	5,538,809

(別記2) 次年度繰越活用見込み

○次年度に繰り越した寄附金の活用見込み

事業名	具体的な事業内容 (予定) ①目的②対象者③実施内容	①実施日時 ②実施場所 (見込み)	事業費の 支出見込み額 [単位：円]	うち寄附金 活用見込み額 [単位：円]
地域コミュニティ 【わくわく恩送り 倶楽部】事業の実 践	①高齢になっても社会参加や活動ができる自分の居場所を見つけ、いつまでも地域とつながりを持ち、社会参加できるまち創り ②みやき町60歳以上の男女 ③イベント活動（講演会・きゃんどのわくわくツアー・文化発表会）/文化活動（リコーダー教室・和太鼓教室・写真教室）/交流活動（定期的な交流会の開催）	令和6年4月～ 令和7年3月まで  みやき町メディカルコミュニティセンター2階	2,400,000	1,849,819
計			2,400,000	1,849,819

(別記3) 寄附金活用額

<b>【収入】佐賀県ふるさと寄附金収入額 … ① (=A+B)</b>		<b>11,029,589</b>
(内訳)	本年度の佐賀県ふるさと寄附金収入額 … A	9,223,574
	本年度交付を受けた佐賀県ふるさと寄附金分	9,044,000
	前年度控除額(県事務経費)還付分	179,574
	前年度収入済の佐賀県ふるさと寄附金繰越額 … B	1,806,015

<b>【支出】佐賀県ふるさと寄附金活用額… ② (=a+b)</b>		<b>9,179,770</b>
(内訳)	事業に活用した寄附金額 … a	5,538,809
	ふるさと納税の募集に要した費用の額 … b	3,640,961
	返礼品等の調達に係る費用	2,758,521
	返礼品等の送付に係る費用	448,341
	広報に係る費用	0
	事務に係る費用	434,099

<b>佐賀県ふるさと寄附金の次年度繰越額 … ③ (=①-②)</b>	<b>1,849,819</b>
-------------------------------------	------------------

■直近の収支報告書掲載箇所(ホームページURL等)

<https://fields.canpan.info/organization/detail/1507635058>